

Japan-YWP 2024年度 総会

2025年4月25日

Japan-YWP 第8期代表 野村洋平

■Japan-YWPの概要

Japan-YWPは、IWA日本国内委員会の下部組織として2010年3月5日に設立され、水分野における学術的研究・知識の普及、水環境保全への貢献を目的とする若手中心の組織である(図1)。2025年3月末時点での登録会員数は370名であり、教育機関、研究所、民間企業、官庁・自治体など、様々な所属の方がJapan-YWP会員となっている。産官学の垣根を越えて会員同士が人的ネットワークを構築し、情報の発信と収集を行うプラットフォームとなることを活動理念として掲げている(図2)。

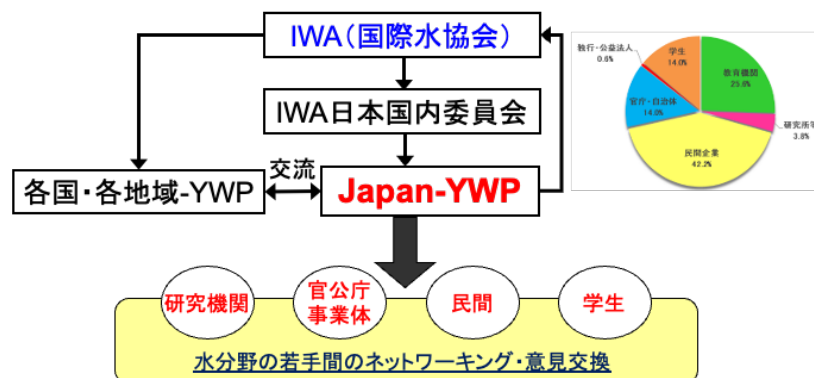


図1 Japan-YWPの位置づけ、会員の所属

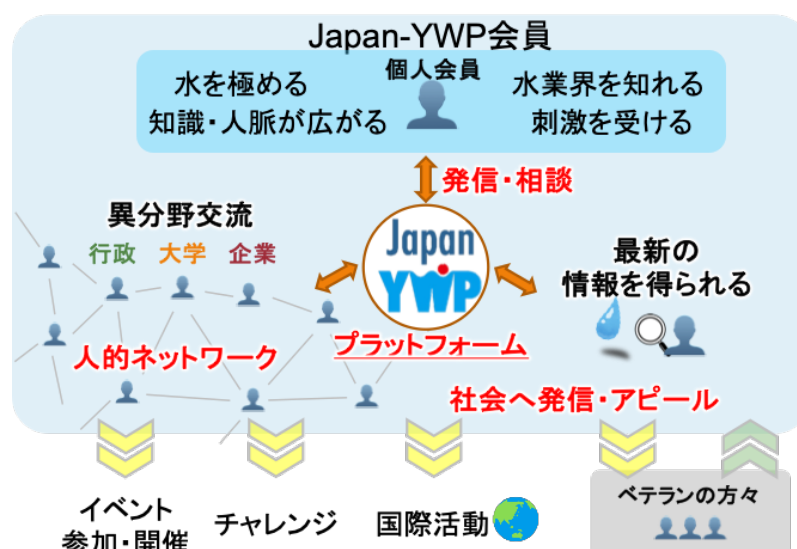


図2 Japan-YWPの活動理念

■運営体制

組織やイベントの運営は14名の運営委員が取りまとめており、4名のアドバイザーの協力を受けて活動を行っている(表1)。

表1 運営体制

代表	野村洋平 (京都大学)
副代表	高田一輝 (三菱総合研究所) 長尾麻未 (NJS) 渡利高大 (長岡技術科学大学)
委員	相原雅紀 (中央大学、学生委員) 池田直生 (JFEエンジニアリング) 石井淑大 (国土技術政策総合研究所) 神田 峻 (水ingエンジニアリング) 小林風太 (日水コン) 佐藤雄梧 (香港科技大学) 多田悠人 (京都大学) 松永光司 (埼玉大学) 三輪 徹 (産業技術総合研究所) 村上智香 (日水コン)
アドバイザー	阿部秀夫 (公益社団法人日本水道協会) 堂藺洋昭 (国土交通省水管理・国土保全局下水道部) 片山浩之 (東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻) 藤原 拓 (京都大学大学院地球環境学堂地球益学廊)

■活動の状況

2024年の活動実績を表2に示す。いであ株式会社、日本水環境学会、Maynilad Water Service, Inc.の支援を受け、フィリピン・マニラにてPhilippines-YWPとの国際シンポジウム(図3)を実現した。

表2 2024年度の活動

時期	イベント内容
2024.7.19	Japan-YWP Networking Platform in WET 2024 国内外の若手の交流の場を設けディスカッションを行った。
2024.9.14～ 9.17	Japan-YWP & Philippines-YWP 国際シンポジウム いであ株式会社、日本水環境学会、Maynilad Water Service, Inc.の支援を受けて、フィリピン・マニラにてオンサイト・オンライン併用のハイブリッド形式の国際シンポジウムを開催した(図 3)。Japan-YWP からは 12 名(運営委員 5 名+ 学生 7 名)が現地参加し、シンポジウム開催に加えて、浄水場や下水処理場を見学した。
2024.9.19	第 21 回 JWRC 水道講座 横須賀市上下水道局 有馬広泰 氏、京都市上下水道局 横井貴大 氏による講演
2024.10.5	お仕事セミナー2024 産官学から若手を招いて、取組内容を紹介し、学生と対談(図 4) オンサイト・オンライン併用のハイブリッド形式で実施した。
2024.12.19	第 22 回 JWRC 水道講座 豊田工業高等専門学校 松本嘉孝 氏、山梨大学 亀井 樹 氏による講演
2025.3.17	若手で考える上下水道の防災と災害復興 公益財団法人西原育英文化事業団の支援を受けて、第 59 回日本水環境学会年会のプログラムの一部として実施した。令和 6 年 1 月に発生した能登半島地震および 9 月に発生した豪雨からの復興に携わっている若手の方をゲスト講師としてオンサイト・オンライン併用のハイブリッド形式の講演会を実施した。対面 70 名、オンライン 28 名の合計 98 名の参加者があり大盛況であった(図 5)。

図 6 と図 7 に示すように、活動内容はニュースレターを通じて会員へ紹介するとともに、ホームページに公開している(<http://www.japan-ywp.site/newsletter.html>)。今期はホームページを刷新し、Japan-YWP 設立 15 周年イベントの開催を計画している。

Speakers that inspire your best ideas

We have a stellar lineup of speakers and facilitators who will inspire you with their experiences and insights...



図 3 Japan-YWP&Philippines-YWP 国際シンポジウム広報資料



図 4 お仕事セミナー2024



図 5 「若手で考える上下水道の防災と災害復興」セミナーでの会場の様子

Newsletter

August 2024 Vo. 21



YOUNG WATER
PROFESSIONALS
JAPAN

Contents 3年ぶりに発行！2024年度運営委員紹介



Japan-YWP代表
京都大学
野村洋平

Japan-YWPは、水分野における若手研究者や専門家のための国際的なネットワークであり、若手の成長と水に関する技術や知識の普及を目的としています。我々の活動は、次世代のリーダーたちがグローバルな課題に対応できるようにするためのサポートを行うことです。我々のネットワークは、学術的な活動のみならず、産業界や政府機関との連携を強化し、実際の社会問題に対するソリューションを提案することにも力を入れています。特に、日本国内外の水問題に対する関心を高め、より良い未来を築くために、さまざまなプロジェクトやイベントを企画・実施しています。私たちの活動を通じて、若手の水専門家が専門知識を深め、また、異なるバックグラウンドを持つ人々との交流を通じて視野を広げ、将来的なキャリアの発展に寄与できることを目指しています。最後に、Japan-YWPの活動にご賛同いただき、共に未来を創造する仲間として、皆様の積極的なご参加をお待ちしております。



Japan-YWP副代表
長岡技術科学大学
渡利高大

2018年から主に水環境学会と関連するイベントと会期中の飲み会を担当しています。YWPで知り合ったメンバーは国内外を含め一生の仲間になると思っています。飲み会だけでもいいので皆様（特に学生さん）の積極的な参加をお待ちしております！



Japan-YWP副代表
三菱総合研究所
高田 一輝

2020年より副代表を務めております、三菱総研の高田です。Japan YWPに関わり始めてはや6年ほどが経ち、そろそろYoung粋から追い出されないか若干不安ですが（笑）、今期も引き続き皆さまと活動していければと思います。思い返せば、私が初めて副代表に就任した2020年はコロナ禍の真っ最中でして、色々な活動が制限され、Japan YWPも変わらざるを得ない時期にあったかと思います。翻って近年の状況に目を向けますと、リアルなコミュニケーションが復活しつつあるポストコロナの時代になりました。より一層の変化を求められる昨今、一緒に新しいJapan YWPを目指していきましょう！



Japan-YWP副代表
NJS
長尾麻未

第8期副代表を務めさせていただく長尾です。数年前からJapan-YWPの運営委員として関わり、企画、総務、国際関係と幅広く携わらせていただきました。日本国において水に関わる若手が様々な業種、様々な分野から集まるプラットフォームですので、会員の皆様には広く活用していただきたいです。我々もイベントを企画して参りますが、会員の皆様からも「この人の話が聞きたい」や「こんな人たちと集まって話がしたい、イベントがしたい」などありましたら、まず一度ご連絡いただければ実現に向けて色々検討が可能です。簡単な相談からでも構いませんので、もし気になる事、自分一人では諦めていることなどございましたら、Japan-YWPを頼ってみてください！

1

Newsletter

January 2025 Vo. 22



YOUNG WATER
PROFESSIONALS
JAPAN



Contents Japan-Philippines YWP シンポジウム2024



9/15-17にフィリピンYWPと合同で**Japan-Philippines YWP シンポジウム 2024**を開催しました。開催にあたっては事前（9月7日）にプレシンポジウム～**Bridging Waters: Challenges and Opportunities in the Philippines and Japan Water Sector**～をオンラインで開催し、講師を招き互いの課題について深めることとしました。現地マニラで開催された本イベントでは、日本からのJapan-YWP会員9名を含め約70名が一同に会し、日本とフィリピンの**互いの「水」に関連する課題**を共有し、現在から将来の観点でその解決に向けたアイデアを、ラウンドテーブルやパネルディスカッションを通して、意見交換しました。その他、同シンポジウム期間を通じて、現地水処理プラントのテクニカルツアーや懇親会を実施しました。

～参加者の感想～

本シンポジウムでは、フィリピン及び日本の大学院生、教員、そして民間企業の専門家など、多様な分野から若手が集い、水分野の課題やベストプラクティスを共有し、課題解決に向けたアイデアを出しました。教育の重要性や新たなパートナーシップの可能性を議論する中で、両国の産学官が連携する意義を改めて実感しました。また、異なるバックグラウンドを持つ参加者との交流を通じて、多様な視点を取り入れることの重要性を深く学びました。本シンポジウムを新たな出発点とし、国境を越えたコラボレーションを積極的に探めながら、現在取り組む温室効果ガス抑制型の廃水処理システムの開発をさらに推進していきたいと思いました。



長岡技術科学大学
大学院1年
樺澤 壮太

■会計報告

2024年度の経理状況を表3に示す。いであ株式会社および日本水環境学会（いであ活動賞）、西原育英文化事業団より助成を受けた。支出は、以下のように分類し、必要な経費として適正に執行した。

- ・ 運営費: ホームページの制作と維持、メーリングリストの管理等に係る費用。つるつるカンパニー合同会社様に委託してホームページのリニューアルを実施した。
- ・ 会議・イベント開催費: 事前ミーティングおよびセミナーの実施に係る費用
- ・ 旅費: 講演者やJapan-YWP運営委員の移動にともなう交通費および関連経費
- ・ 備品購入費: セミナーの運営・記録・配信等を目的とした機材や消耗品の購入費用
- ・ 雑費: 旅費の振込手数料

表3 本セミナーの開催に係る収支報告

収入		
前年度繰越		¥1,982,499
収入(助成金、利息)		¥2,300,810
合計		¥4,283,309
支出		
運営費		¥655,044
会議・イベント開催費		¥1,448,868
旅費		¥651,739
備品購入費		¥311,723
雑費		¥17,134
合計		¥3,084,508
残高		
移管資金	期首残高	¥4,283,309
次期繰越	活動増減差額	¥3,084,508
移管資金	期末残高	¥1,198,801